

編集後記

会誌一〇七号をお届けします。

野田氏の論文は前号の続編。ちょうど、自由民権百年に当たっているだけに時宜を得ているし、本県の政党史に新分野を拓いた労作であります。また、加藤氏の論文も、昨年催された加来神社卯酉神事（県選挙・無形民俗文化財）を記録保存するために、大分市より依頼されて調査された結果をまとめたものであります。

「研究ノート」に納めた佐藤氏の論文は、新史料を駆使して、明治三年の暗殺事件の解明に再考を加え、興味深い論証を展開されています。浅野氏と矢野氏は、従来の本誌では数少ない歴史地理分野の研究を寄せられ、私達に「何処で」の認識の大切さを示唆してくれます。

また、段上氏は柳田民俗学の研究方法である重出立証法や現在も有力な民俗周圖論に対して、近年台頭しつつある個別分析法を用いている点が注目され、本県の民俗研究に新風を吹き込んでくれました。

本号でも、多くの「会員便り」をお待ち致しましたが、ご寄稿が少ないままで発刊の運びとなりました。会誌を身近なものにするために、すすんでご寄稿くださるようお願い致します。なお、本号所載の投稿規定をご参照くださるようお願い致します。

（小玉）

昭和五十七年九月二十五日 印刷
昭和五十七年九月三十日 発行

大分県地方史 第二〇七号

編集者 小玉 洋美

発行者 渡辺 澄夫

印刷者 中尾 孝

別府市中央町九一五

印刷所 日の丸印刷株式会社

（電話 〇〇三四一）

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

（振替・下関五二九四番）